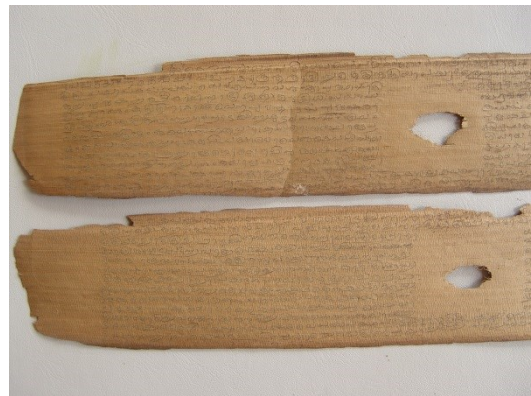
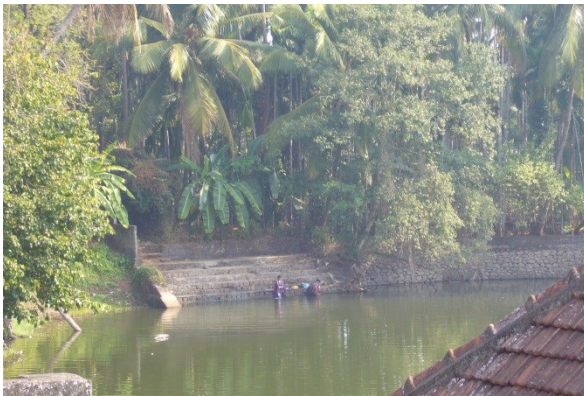


東京大学文学部
インド語インド文学研究室（印文）

Department of Indian Languages and Literature

インド文化は、紀元前二千年紀から現代までの三千年にわたって、豊かな文献資料を伝えています。印文研究室では、文献学と言語学の手法を基礎として、主に紀元前12世紀～後12世紀のインドの古典言語、文学、文化を総合的に研究しています。



©Mieko Kajihara

インド語インド文学研究室で身につけるもの

サンスクリット語を中心に、インドの古典言語と古典文学にもとづく深い教養を身につけることをめざします。研究者を志す方には、本分野を継承する次世代の研究者となることを、社会での活躍を志す方には、南アジア文化に造詣の深いグローバル人材となることを、それぞれめざしていただきます。

入学したら

学士課程では、サンスクリット語の基礎を学び身につけるとともに、英・独・仏語による先人たちの研究成果を読みこなす訓練を行います。サンスクリット語ならびに何かもうひとつのインド語（パーリ語、その他のプラークリット語、タミル語、ヒンディー語から選べます）の初級文法は必修です。一見大変そうですが、言語が好きなかたなら、楽しく充実した学びの時間を過ごせます。

その他、インド哲学、仏教学、言語学、西洋古典学など、他研究室の授業も積極的に受講することが推奨されます。

小さな研究室ですから、各自の関心に応じた指導を受けることができます。卒業には、卒業論文か特別演習（指定された原典および欧文文献を講読し試験を受ける科目）のいずれかを選ぶことができます。

印文研究室の研究対象

インド語とは

本研究室では「インド亜大陸で用いられてきた諸言語」をインド語と呼んでいます。中心とするのは、紀元前 12 世紀に端を発するサンスクリット語です。サンスクリット（古インド・アーリア語、梵語）はインド・ヨーロッパ語のなかでも古い形を伝える言語です。多くの中期インド語および現代インド諸語の源流でもあります。

インド文学とは

本研究室でいう「インド文学」は、狭い意味での文学（叙事詩、説話、戯曲など）だけではなく、古代から中世のインドの宗教、文化史、儀礼、美学、科学（医学、天文学、数学、建築学など）といった、「言語によって伝えられ発展してきたインド文化」全体をさします。インドの文化は、ヒンドゥー教や仏教を介して、南アジアから東南アジア、および日本を含む東アジアに大きな影響を及ぼしてきました。

過去数年間の教員・大学院生・学部生の研究テーマ

ヴェーダ祭式学、古代インド医学、サンスクリット叙事詩、古典インド占星術学、タミル叙事詩、タミル聖典シヴァ派、古代インド家庭儀礼、ウパニシャッドと初期仏教の接点、リグヴェーダ詩論、古代インド葬送儀礼、サンスクリット演劇論、シャイナ教の戒律、マヌ法典、カシミール王統記、パーニニ文法学



©Mieko Kajihara



印文研究室HP

現在およびこれまでの授業内容一覧をふくめ、各種の情報を掲載しています。

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/indlit/index.html>